

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 13 日現在

機関番号：44417

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：平成 21 ～ 平成 23 年度

課題番号：21652059

研究課題名（和文） 大学英語教員の授業力向上を促す授業観察診断シートと改善の手引書作成のための研究

研究課題名（英文） Developing Peer Review Sheets and Tips for College English Teachers

研究代表者

村上裕美（Murakami Hiromi）

関西外国語大学短期大学部・その他の学部・准教授

研究者番号：80300284

研究成果の概要（和文）：

本研究は、大学英語教員の指導力向上と授業改善を可能にする授業観察シートおよび授業改善のための手引書の作成を目的とする。本研究では、学習者に実施したアンケートと研究メンバーの知見と経験から英語の授業や教員に関する不満や希望を抽出し、英語の授業観察シートの質問項目を作成している。この視点には、教員同士が批判的視点に立って授業観察するのではなく、授業者も参観者も共に win-win 関係で授業参観を通して学ぶ機会を提供する目的がある。また、授業改善のための手引書も、学習者の視点と希望に気付く機会となるようデザインしている。観察シートおよび手引書は、FD 活動における授業参観に対する抵抗感の軽減を可能にするツールとして役立てられることを願って開発した。研究期間中、5 種類の英語の技能別授業観シートおよび手引書を開発した。

しかし、授業参観が実現しない教員には改善や気づきの機会が乏しいため、本研究では、教員が日々の授業を振り返る習慣と学習者をよく観察し、よりよい授業実現のために工夫を試みる機会を提供する目的で各種ポートフォリオを開発した。教師用ポートフォリオの使用に抵抗を感じる教員には、学習者の学習効果を高めるポートフォリオを指導に取り入れることにより、指導の視点や授業展開への気付きの機会となるデザインを施している。本研究では、大学英語教員の授業改善を可能な限り可能にする機会提供の可能性を研究し、その具体化を図った。

研究成果の概要（英文）：

This study aims to support and encourage college English teachers to develop their teaching skills by using Peer Review Sheets and Tips. We have been focusing on students' complaints and requests regarding teachers by administering questionnaires. We found that most teachers hesitate to be observed in class in order to avoid evaluative observations. By using Peer Review Sheets, we are trying to decrease the stress experienced by both teachers and observers, and also to provide potential tips for developing teaching skills. We have developed 5 types of sheets for the different purposes of classes/skills.

Unfortunately, these sheets could not be practically used until now, as some

teachers only have opportunities to be observed as part of FD programs. For those teachers, we tried to design other possible tools for developing teaching skills.

Moreover, we developed portfolios for students and teachers to give them opportunities to reflect on their own teaching. We designed these portfolios to suggest and give teachers hints to recognize potential teaching skills. These portfolios indicate the learning and understanding of students to teachers.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 平成21年度 | 900,000 | 0 | 900,000 |
| 平成22年度 | 800,000 | 0 | 800,000 |
| 平成23年度 | 1,200,000 | 360,000 | 1,560,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 2,900,000 | 360,000 | 3,260,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：授業評価・測定、授業観察診断シート、授業改善の手引書

1. 研究開始当初の背景

大学英語教育学会 (JACET) 授業学研究委員会活動に参加し、優れた授業を全国から公募し、査読させていただく機会を得て、優れた授業とは誰の視点に立つかを改めて考察した時、学習者の視点が考慮されていないことに気付き、学習者の視点を取り入れた真のよい授業を実現させる授業改善の研究を始めた。教員が育てば学生が育ち、学習者が育てば大学教育が充実するという信念をもって授業学研究委員会の活動期間に加え、活動期間終了後も研究を継続した。

2. 研究の目的

各大学で教員の授業評価が盛んに行われているが、教員に対する学習者の不満や怒りは決して解消されていないことがアンケート調査から判明した。学生的心声をいかに教員に伝えるか、改善を促すことが可能になるかという視点を考察した結果、FD活動等の中で使用することのできる授業観察シート開発という形で大学教員の授業力向上、授業改善に貢献することを目的として研究を始めた。

また、指導経験が浅い、あるいは教育活動を初めて行う教員も存在するので、改善のヒントとして手引書を開発することの必要性を感じた。まだまだFD活動において授業を公開することに抵抗感が強いことを教員へのアンケートやインタビューから認識したため、批判的視点に立たず、観察者も授業者

もともに win-win 関係に立つ授業観察の環境を提供する目的でシートおよび手引書の開発を行った。

3. 研究の方法

本研究は、理論重視ではなく、研究メンバーの知見と学習者および教員に実施したアンケートから吸い上げた授業上で発生している問題点や問題ある行為を具体的に項目として挙げ、改善へ導く工夫を凝らしている。特に、批判的視点に立たない表現や観察シートの項目立てに注意を払っている。観察シートはPeer Review Sheet とよび、手引書はTips と名付け、使用者の精神的負担の軽減を図っている。英語教員だけでなく、全ての科目や学年担当の教員に使用できる汎用性の高いBasic版の授業観察シートの作成から開始した。そして可能な限りの研究発表を行い、参会者のアドバイスや感想を大いに参考にした。さらに、研究代表の大学にて実施される授業公開の機会に実際に使用した。これらの機会を通して、シートの完成度を高めるように絶え間ない努力を行った。続いて英語のSpeaking, Writing, Listening, Readingの順でスキル別授業観察シートを開発して発表を通してその完成度を高めて行った。

また、授業参観が実現しない環境では、授業改善の可能性が少ないため、教員が日常的に自身の授業を振り返り授業改善を図るという一連の作業を慣習化することによって、授業改善を図ることができるための視点を

養うという目的で、教師用ポートフォリオを開発した。さらに、授業改善に抵抗感や必要を感じない教員が多くいる現実から、学習者用ポートフォリオを開発した。このポートフォリオには、教員が英語指導に学習者用ポートフォリオを活用することにより、学習者の視点を意識するので、授業改善や授業力向上の機会を自然に提供するデザインを施している。

4. 研究成果

本研究の成果として5種類の授業観察シートおよび授業改善のための手引書を完成させ実用化している。

- 1) 授業観察シートおよび手引書
Ver. 2012 Basic
- 2) 授業観察シートおよび手引書
Ver. 2012 Reading
- 3) 授業観察シートおよび手引書
Ver. 2012 Writing
- 4) 授業観察シートおよび手引書
Ver. 2012 Speaking
- 5) 授業観察シートおよび手引書
Ver. 2012 Listening

また、本研究の成果として4種類のポートフォリオを完成させ実用化している。

- 1) MH式大学英語教員用ポートフォリオ
(平成24年秋出版予定)
- 2) 学びのデザインノート:MH式ポートフォリオ 大学英語学習者用 (村上, 2012)
- 3) MH式ポートフォリオ 大学初年次学習者用
- 4) MH式ポートフォリオ 海外語学研修用

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1件)

村上 裕美 2011

「学生の自律と学習効果を高める村上式学習者用ポートフォリオの考察」
関西外国語大学高等教育研究論集 (査読有)
第1号 69-78頁

[学会発表] (計 20件)

1. 村上裕美、東郷多津、笹井悦子
「大学英語教員の授業力向上を目指す授業観察シートおよび授業改善のための手引書の考察」
(全英語スキル別)
大学英語教育学会 関西支部春季大会
2012年6月16日 大阪大学

2. 村上裕美

「MH式ポートフォリオ大学英語学習者用を活用した自律した学生の育成と教師の授業改善を促す試み」
関西地区FD連絡協議会総会
2012年5月19日

3. 村上裕美、東郷多津、笹井悦子

「全分野に共通する基礎的な授業力についての考察」
日本リメディアル教育学会 第2回研究会
2012年5月13日 立命館大学

4. 村上裕美

「MH式大学英語学習者用ポートフォリオを活用した教員の授業改善と指導力向上の可能性の考察」
日本メディア英語学会
メディア英語教授法・教材研究分科会
2012年4月28日 関西外国語大学

5. 村上裕美 (招待講演)

「文学を教材に用いた授業における大学英語学習者用ポートフォリオを用いたスキル別指導の可能性の考察」
JACET文学教育研究会
2012年4月21日 同志社大学

6. 村上 裕美

「海外語学研修用ポートフォリオの考察：より効果的な英語研修を目指して」
第18回大学教育研究フォーラム
2012年3月16日 京都大学

7. 村上 裕美

‘Effectiveness in implementing Murakami’s portfolio for teachers and students’
英語教育フォーラム—英語教育の新地平—
2011年12月3日 関西外国語大学

8. 村上 裕美 (招待講演)

「各種ポートフォリオを活用した自主的に学習効果を高め教師の授業力を高める可能性の考察」
愛知淑徳大学 メディアプロデュース学部 FD 講演会
2011年11月7日 愛知淑徳大学

9. 村上 裕美

「村上式初年次学習者用ポートフォリオの考察：学生の自律と学習意欲を高めるために」
日本リメディアル教育学会第7回全国大会
2011年9月3日 福岡大学

10. 村上 裕美 (招待講演)

「教師の授業改善と学生の自律を可能にするポートフォリオの活用」

関西外国語大学 FD 授業研究会
2011年6月4日 関西外国語大学

11. 村上裕美

「教師の授業力を高めるプロジェクト開発のための考察」

日本リメディアル教育学会第3回関西支部会支部大会

2011年3月23日 関西外国語大学

12. 村上裕美

「ポートフォリオを活用した授業改善の試み—学生と教師の成長を目指して—」

第17回大学教育研究フォーラム

2011年3月17日 京都大学

13. 村上裕美 (招待講演)

「教師と学生の共育を目指したポートフォリオ—自律と自主性を高めるために—」

大学英語教育学会関西支部

2010年11月27日 関西学院大学

14. 村上裕美・東郷多津・笹井悦子

「教師の授業改善を目指した授業評価シートと改善力を促すポートフォリオの考察」

大学英語教育学会第49回全国大会

2010年9月7日 宮城大学

15. 村上裕美

「学習意欲と自己管理能力を喚起する学生主体のポートフォリオ」

大学英語教育学会関西支部春季大会

2010年6月19日 同支社女子大学

16. 村上裕美

「エジプトにおける教員育成のための授業観察シートとピア観察シートとの比較—より充実したシート作成を目指して—」

日本リメディアル教育学会 関西支部会支部大会

2010年3月19日 摂南大学

17. 村上裕美 (招待講演)

「*My E* 英語教授法・教材研究の多様性と可能性」

日本時事英語学会 西日本支部例会

2009年12月12日 大阪駅前第2ビル

18. 村上裕美

「教授法研究の意義と方向性—学習効果を高めるために—」

日本時事英語学会 第1回*My E*英語教授法・教材研究分科会

2009年10月17日 関西外国語大学

19. 村上裕美

「Speaking に特化した授業観察シートと授業改善の手引書」

現代英語談話会

2009年9月27日 京大会館

20. 村上裕美・東郷多津・笹井悦子

「学生の学習意欲を高める授業とは：授業観察シートと授業改善の手引書活用の可能性」

日本リメディアル教育学会全国大会

2009年9月2日 千歳科学技術大学

〔図書〕(計 1件)

村上裕美 ナカニシヤ出版

『学びのデザインブック：MH 式ポートフォリオ大学英語学習者用』2012 147頁

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況(計 0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村上裕美 (Murakami Hiromi)

関西外国語大学短期大学部・その他の部局・准教授

研究者番号：80300284

(2) 研究分担者

東郷多津 (Togo Tazu)

京都ノートルダム女子大学・人間文化学部・准教授

研究者番号：40237045

(3) 連携研究者

小栗裕子 (Oguri Yuko)

滋賀県立大学・公私立大学の部局等・准教授

授
研究者番号：80224195